

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	街区公園整備事業					事務事業コード	01812
部 名	都市建設部	課 名	みどり公園課	係 名	みどり公園係	部課コード	050300

1. 事業概要

総合計画コード	5313	5413	5511	5512	5513
事業年度	年度 ~ H	年度	事業類型	○ソフト事業 ●ハード事業	
法令等の義務付け	○ 法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ● 義務と任意の両方を含んでいる事業 ○ 任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務			<根拠法令等(法律、条例、要綱など)>	
めざす 目的成果	市民の意見を取り入れた公園を造ることにより、市民が親しみを持って快適に公園を使用しているとともに、災害時のオープンスペースが確保されている。				
事業内容	市民参加により計画をつくり、街区公園の整備を行う。				
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付				
	市民の意見を取り入れ、公園整備に反映させる。				

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			新設街区公園の整備について検討するとともに、公園用地の確保に向け調整を行う。									
				単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]			0		0		0				
	財源内訳	[イ]国庫支出金										
		[ロ]県支出金										
		[ハ]地方債										
		[ニ]その他										
		[ホ]一般財源										
	b 人件費			3,664		3,664		3,664		3,664		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)			3,664		3,664		3,664		3,664			
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.50 人		0.50 人		0.50 人				
		一般職非常勤職員等(時間)		時間		時間		時間				
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳			職員人件費のみ									
指標名				単位	H28目標・計画		H29目標・計画		H30目標・計画		最終目標・計画	
					(H28実績見込)		(H29実績見込)		(H30実績見込)		目標年度	
活 動	①	街区公園整備箇所数		箇所	0		0		0		0	
	②				(0)		(—)		(—)		H	32 年度
成 果	①	1人当たりの公園面積 (公園面積／人口)		m ²	2.24		2.24		2.24		2.24	
	②				(2.21)		(—)		(—)		H	32 年度
					()		(—)		(—)		H	年度

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 公園が不足していること及び公園整備について市民からの要望も多いため、市民の憩いの場の確保や防災の観点から新設公園の整備は必要と考えている。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☐ B 概ね目標の成果が得られた	☒ C 目標とする成果が得られなかった
	☐ 活動指標の目標を達成した ☐ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☒ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 公園や広場の設置には、用地の確保や地元の合意形成が必要なことから、整備が進まない状況となっている。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 市民が親しみを持って快適に利用できる公園づくりに配慮した。 参加と協働: 住民説明会や意見交換会を行い、広く市民の意見を取り入れる機会を設けた。 経営的な視点: 効率的に管理がしやすい施設の配置や整備を検討した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☒ I 見直す余地がない	☐ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 朝志ヶ丘、三原や仲町地区において、公園が不足していること及び公園整備について、市民からの要望も多いため整備は必要と考えている。相続や開発行為等により、土地の活用が図られる機会を捉え、公園用地の確保に努める。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
		方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		
公園が偏在している状況を改善するため、公園不足地区において公園として利用が可能な樹林地、生産緑地、遊休地等の借地化・公有地化を検討し、街区公園の整備を進める。				